

- I 調査の概要
- II 札幌の子どもの「学力」と
「学習意欲等」について
- III 学力調査の結果概要及び改善
の方向等について

I 調査の概要

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的としている。

なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることに十分に配慮することが必要である。

2 対象学年

- ・小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年
- ・中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査の内容

① 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 (国語A、算数・数学A)	主として「活用」に関する問題 (国語B、算数・数学B)
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした出題	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした出題

② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査	・学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

4 実施日

平成26年4月22日 (火)

5 調査対象校数及び調査を受けた人数等

【札幌市】

	調査対象校数	調査対象校における対象学年の在籍数	調査を受けた人数及び参加率	
小学校	203校	15,383人	14,958人	97.2%
中学校	98校	14,948人	14,094人	94.3%
合計	301校	30,331人	29,052人	95.8%

※小学校には特別支援学校小学部を、中学校には特別支援学校中学部を含む。

※調査を受けた人数は、回収した回答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

Ⅱ 札幌の子ども「学力」と「学習意欲等」について ～ 結果の全体概要 ～

教科に関する調査結果から

【小学校】

国語、算数の問題A、Bいずれも、
全国平均正答率と「ほぼ同程度」

【中学校】

国語、数学の問題A、Bいずれも、
全国平均正答率と「ほぼ同程度」

※問題A…主として「知識」に関する問題、問題B…主として「活用」に関する問題（詳しくはP1を参照のこと）
※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

学 力

- ◆知識・技能の定着については、小学校国語（漢字を正しく書くことなど）、算数（四則の混合した計算や、異分母の分数の計算など）に継続的な課題。（一部の問題で、全国平均正答率を下回る状況）
- ◆「活用」に関しては、中学校で全国平均正答率を上回る問題が見られる。一方、「伝えたい事柄や根拠を明確にして、自分の考えを書くこと」や「事柄の特徴を的確に捉え、適切な表現で説明すること」などの問題で、全国と同様に誤答率・無解答率が高い状況が見られ、小・中学校ともに課題。

※「下回る」は、全国の平均正答率と比較して3.1ポイント以上、下回る状況。
※「上回る」は、全国の平均正答率と比較して3.1ポイント以上、上回る状況。

児童生徒に対する質問紙調査結果から

学 習 意 欲 等

■読書が好きな子どもの割合は、平成19年度に比べ増加し、全国平均より高い状況。

H19年度：小 72.0% (71.3%) 中 66.5% (67.9%)

H25年度：小 74.5% (72.1%) 中 76.3% (70.1%)

H26年度：小 75.9% (73.0%) 中 74.9% (69.4%)

■難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している子どもの割合は、平成19年度に比べ増加しているが、全国平均より低い状況。

H19年度：小 69.8% (72.3%) 中 62.7% (62.0%)

H25年度：小 71.2% (75.0%) 中 65.7% (66.8%)

H26年度：小 71.4% (75.1%) 中 66.4% (68.0%)

■将来の夢や目標をもっている子どもの割合は、平成19年度に比べ増加しているが、全国平均より低い状況。

H19年度：小 81.5% (83.7%) 中 69.2% (70.7%)

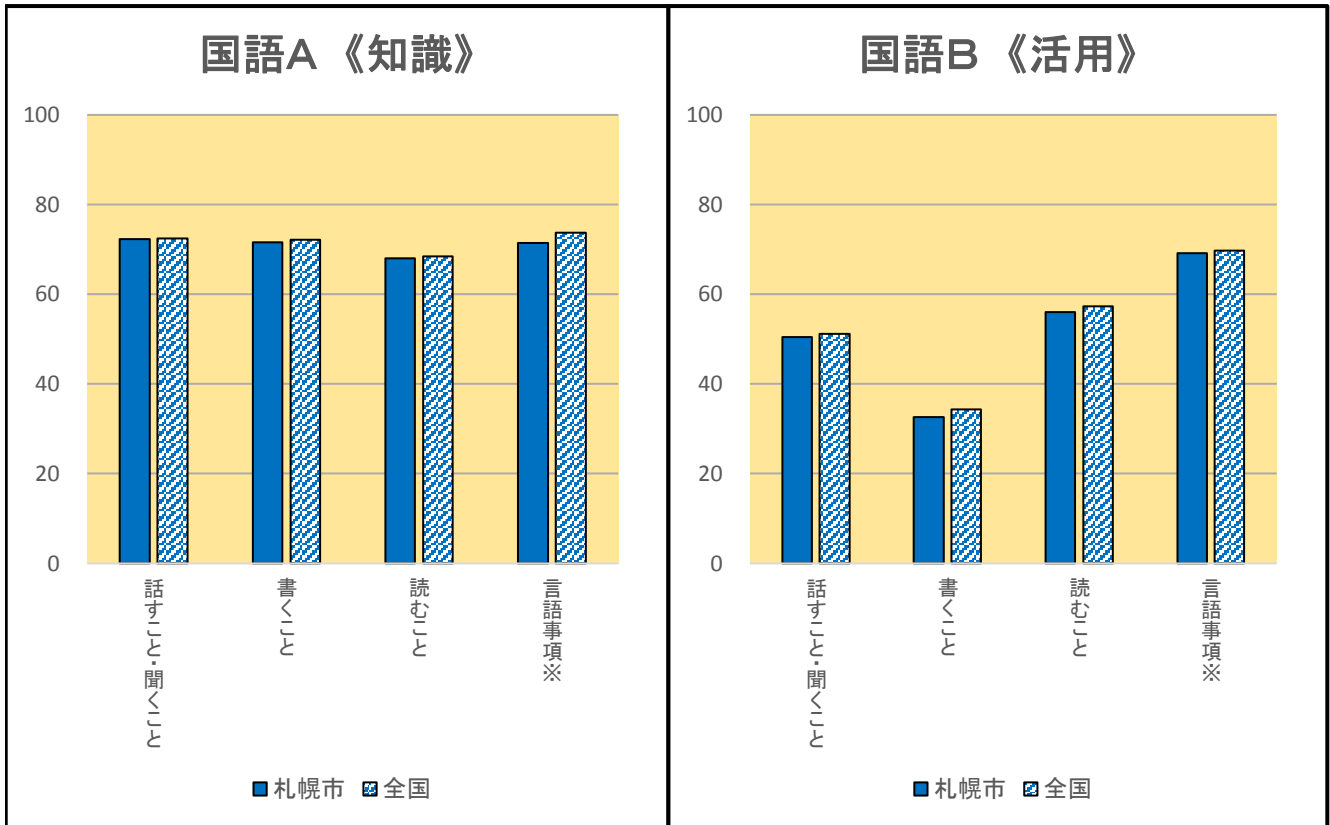
H25年度：小 85.7% (87.7%) 中 71.5% (73.5%)

H26年度：小 84.6% (86.7%) 中 70.0% (71.4%)

※（ ）内は全国平均

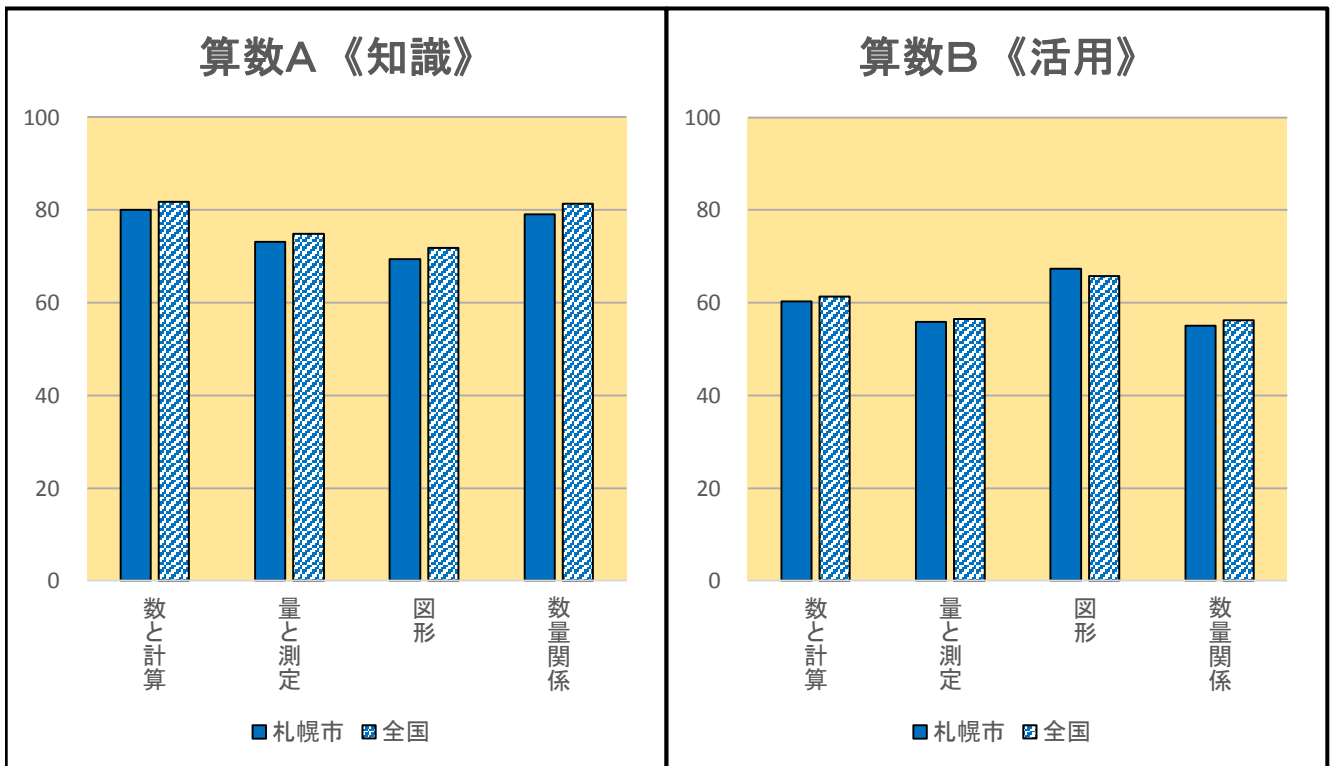
小学校

各教科領域別平均正答率【全国平均正答率との比較】



「国語」は、国語A、国語Bともに全ての領域において、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、ほぼ同程度である。

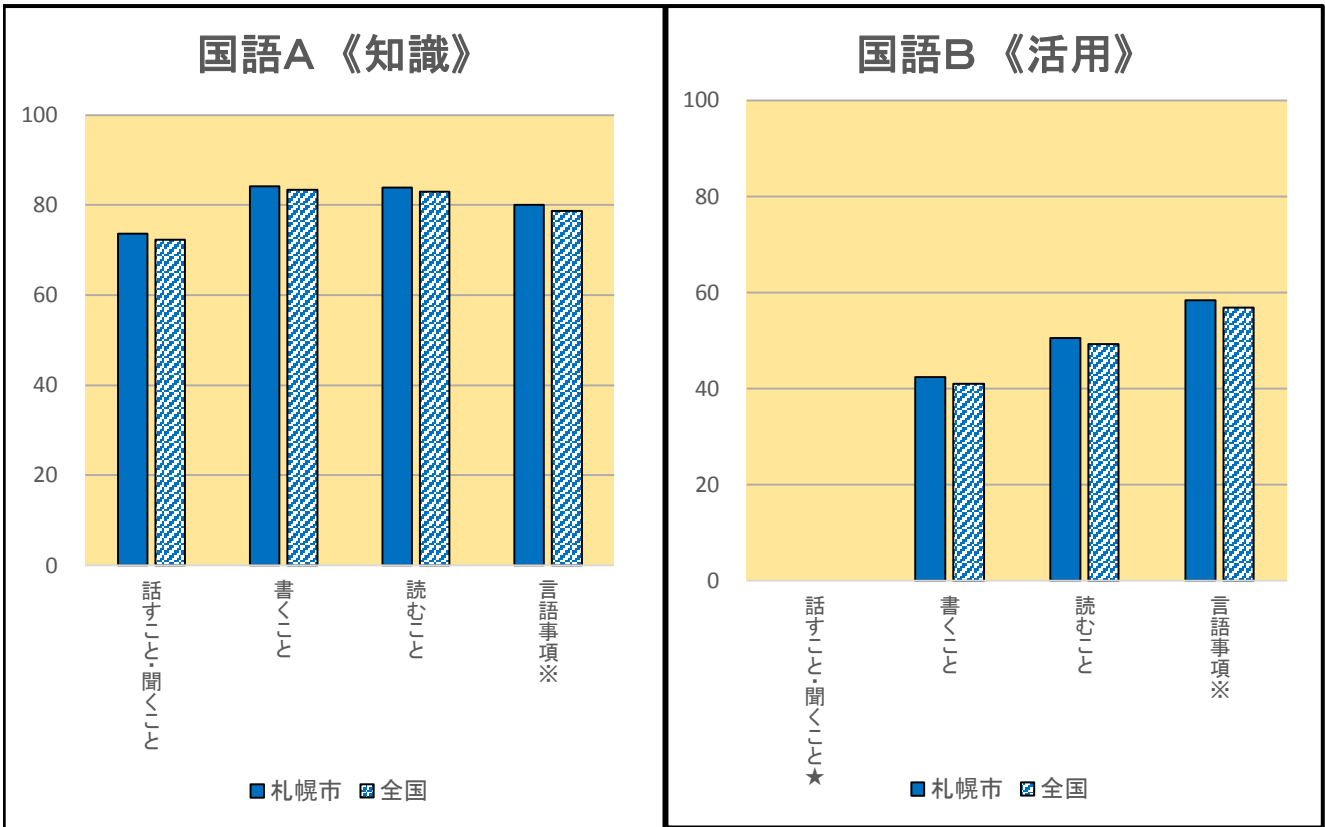
※平成24年度調査から「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に変更。



「算数」は、算数A、算数Bともに全ての領域において、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、ほぼ同程度である。

中学校

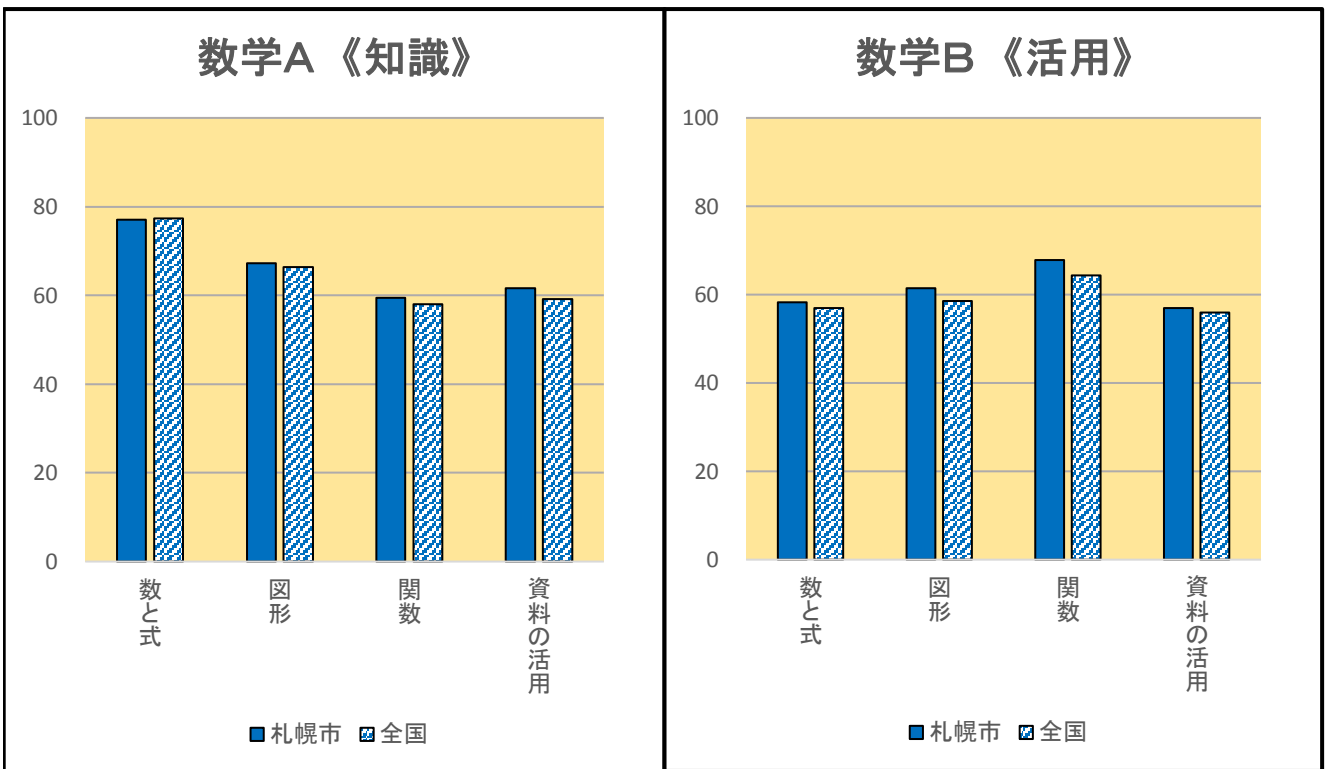
各教科領域別平均正答率【全国平均正答率との比較】



「国語」は、国語A、国語Bともに全ての領域において、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、ほぼ同程度である。

★国語Bの「話すこと・聞くこと」は出題されていない。

※平成25年度調査から「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に変更。



「数学」は、数学Bの「関数」領域において、全国の平均正答率を+3.1ポイント以上上回っている。その他の領域においては、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、ほぼ同程度である。

Ⅲ 学力調査の結果概要及び改善の方向等について

【小学校国語】

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本市の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題（A）

「話すこと・聞くこと」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「書くこと」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「読むこと」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「言語事項」※

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

主として「活用」に関する問題（B）

「話すこと・聞くこと」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「書くこと」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「読むこと」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「言語事項」※

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

記号の意味

(△) 上回っている

ほぼ同程度 (◇) やや上回っている +3% ← 全国平均正答率

(◆) やや下回っている -3%

(▼) 下回っている

* 「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

今回の調査における課題

➤ 立場を明確にして、質問や意見を述べること。

➤ 分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関連付けながらまとめて書くこと。

➤ 二つの詩を比べて読み、自分の考えを書くこと。

➤ 故事成語の意味と使い方を理解すること。

➤ 学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく書くこと。

改善の方向

➤ 自分の意見と相手の意見を比較し、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理して自分の考えをまとめることができるようにする指導の充実。

➤ 課題解決の過程を振り返り、事実と感想、意見などを区別して捉え、目的や条件に応じて書くことができるようにする指導の充実。

➤ 目的を明確にして詩を読み、感想、解説、推薦などの文章として考えをまとめて発表し合うなど、交流を通して自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする指導の充実。

➤ 故事成語の意味や成り立ちなどについて興味や関心に応じて調べ、自分の表現に適切に活用できるようにする指導の充実。

➤ 手紙や日記、ノートなど、日常生活の中で文章を書く際に、漢字のもつ意味を考えながら正しく使うことができるようにする指導の充実。

小学校国語		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
分類	区分	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	◇	◆	◇	◆	◇	◆	◇	◇	△	◆	◆	◆
	書くこと	◆	◆	◇	—	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	読むこと	◆	◇	◆	◆	—	◇	◇	◇	◇	◆	◆	◆
	言語事項※	◆	◇	◆	◆	◆	◇	◆	◇	◆	◆	◆	◆

△(上回っている) ◇(ほぼ同程度だがやや上回っている) —(全国平均と同じ) ◆(ほぼ同程度だがやや下回っている) ▼(下回っている)

※平成24年度調査から「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に変更。

本市の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題（A）

「数と計算」

- ◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「量と測定」

- ◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「図形」

- ◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「数量関係」

- ◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

主として「活用」に関する問題（B）

「数と計算」

- ◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「量と測定」

- ◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「図形」

- ◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「数量関係」

- ◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

※ 記述式の問題においては、無解答が、全国平均よりやや多くなっている。

記号の意味

(△) 上回っている

ほぼ同程度

(◇) やや上回っている +3%

← 全国平均正答率

(◆) やや下回っている -3%

(▼) 下回っている

* 「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して ±3ポイントの範囲内。

今回の調査における課題

- 異分母の分数の加法の計算をすること。

- 単位量当たりの大きさについて、その求め方を理解すること。

- 円周の求め方や、作図に用いられている図形の約束や性質を理解すること。

- 四則の混合した式の意味について理解することや、示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方について考えること。

改善の方向

- 計算の意味や仕組みについての理解を深めるために、数直線や図を用いて、既習と関連付けながら説明をするなど、正しく計算できるようにする指導の充実。

- 単位量当たりの大きさについて、わり算の意味と関連付けて式を理解したり、表や図、式を用いて比べ方や表し方を説明したりする指導の充実。

- 直径と円周の関係を調べたり、作図の操作と図形の性質を関連付けて作図したりするなど、作業的、体験的な活動を通して理解できるようにする指導の充実。

- 具体的な場面と式とを結び付けることで計算の順序についてのきまりを理解したり、問題解決に必要な情報を整理して、筋道を立てて考え、言葉や式を使って説明したりする指導の充実。

小学校算数		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
分類	区分	全国との比較	全国との比較	全国との比較	全国との比較	全国との比較	全国との比較	全国との比較	全国との比較	全国との比較	全国との比較	全国との比較	全国との比較
		(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)
学習指導要領の領域	数と計算	◆	◇	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	量と測定	▼	◇	▼	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	図形	◆	◇	◆	◆	◆	◆	◆	◇	◆	◆	◆	◇
	数量関係	◆	◇	▼	◆	◆	◆	▼	◆	◆	◆	◆	◆

東日本大震災の影響等により、国において調査の実施を見送り

△(上回っている) ◇(ほぼ同程度だがやや上回っている) ○(全国平均と同じ) ◆(ほぼ同程度だがやや下回っている) ▼(下回っている)

本市の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題（A）

「話すこと・聞くこと」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「書くこと」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「読むこと」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「言語事項」※

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

主として「活用」に関する問題（B）

「書くこと」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「読むこと」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「言語事項」※

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

記号の意味

(△) 上回っている

ほぼ同程度

(◇) やや上回っている +3%

← 全国平均正答率

(◆) やや下回っている -3%

(▼) 下回っている

* 「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

➤ 目的に沿って話し合い、互いの発言を検討すること。

➤ 文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書くこと。

➤ 資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くこと。

➤ 複数の資料を比較して読み、要旨を捉えること。

➤ 漢字を書いたり、辞書を活用して、語句の意味を適切に書いたりすること。

➤ 話し合う際に、互いの共通点や相違点を明確にすることで、議論を焦点化できるようにする指導の充実。

➤ 表現の工夫やその効果について、読み手の立場から交流し、自分の表現に役立てることができるようにする指導の充実。

➤ 情報の内容を正確に捉え、相手や目的に応じてそれらを取捨選択したり、関係付けたりして説明を適切に組み立てることができるようにする指導の充実。

➤ 複数の資料の内容を段落ごとに捉えたり、大きな意味のまとまりに分けたりして、全体の要旨を捉えることができるようにする指導の充実。

➤ 作文や読書活動などの多様な言語活動を通して、辞書を活用しながら語彙を拡充できるようにする指導の充実。

中学校国語		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
分類	区分	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	◇	△	△	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
	書くこと	◇	◇	△	◇	◇	◇	◇	◇	◇	△	◇	◇
	読むこと	◇	◇	◇	◇	△	△	◇	◇	◇	◇	◇	◇
	言語事項※	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	△	◇	◇

東日本大震災の影響等により、国において調査の実施を見送り

△(上回っている) ◇(ほぼ同程度だがやや上回っている) ○(全国平均と同じ) ◆(ほぼ同程度だがやや下回っている) ▼(下回っている)

※平成25年度調査から「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に変更。

本市の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題（A）

「数と式」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「図形」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「関数」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「資料の活用」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

主として「活用」に関する問題（B）

「数と式」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「図形」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「関数」

△全国平均に比べ、上回っている。

「資料の活用」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

今回の調査における課題

- 指数を含む正の数と負の数の計算や、数量の大小関係を不等式に表すこと。
- 図形の性質を、構想を立てて証明し、証明を振り返って考えること。
- 関数の意味について理解するとともに、事象を理想化・単純化して解決した結果を解釈し、その結果を数学的に説明すること。
- 与えられた度数分布表から、ある階級の相対度数を求めることや、樹形図などを利用して確率を求めること。

改善の方向

- 誤りのある計算例を取り上げ、計算方法を確認することや、比べようとする数量に着目し、数や文字を用いた式で表すことができるようにする指導の充実。
- 証明の方針を立てたり、証明を読んだりする活動を取り入れるとともに、証明の過程や結論を基に発展的に考えることができるようにする指導の充実。
- 様々な事象の考察を通して、関数の意味を理解できるようにするとともに、数学的な結果を事象に即して解釈し、問題解決のために活用する場面を設定するなどの指導の充実。
- 目的に応じた資料の整理の仕方を考え、相対度数の必要性と意味についての理解を深めるとともに、資料の傾向を読み取る活動を取り入れることや、樹形図や二次元の表などを利用して様々な確率を求める活動を取り入れるなどの指導の充実。

記号の意味

(△) 上回っている

(◇) やや上回っている +3%

ほぼ同程度 ← 全国平均正答率

(◆) やや下回っている -3%

(▽) 下回っている

* 「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して ±3ポイントの範囲内。

中学校数学		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		
分類	区分	全国との比較	全国との比較	全国との比較	全国との比較	全国との比較	全国との比較	全国との比較	全国との比較	区分	全国との比較	全国との比較	全国との比較	全国との比較
		(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	
学習指導要領の領域	数と式	◇	◇	◇	△			◇	△	数と式	◇	◇	◆	◇
	図形	△	△	△	△			◇	△	図形	◇	◇	◇	◇
	数量関係	△	◇	△	△			△	△	関数※	△	◇	◇	△
										資料の活用※	△	◇	◇	◇

△(上回っている) ◇(ほぼ同程度だがやや上回っている) - (全国平均と同じ) ◆(ほぼ同程度だがやや下回っている) ▼(下回っている)

※平成25年度調査から区分が一部変更。